資料３

がん患者相談支援に係る取組の方向性について

１　第四期青森県がん対策推進計画における位置づけ

県、市町村、医療機関及び患者団体は、相談支援の一層の充実を図るため、患者団体等を活用した仕組みづくりや、ピア・サポーターの活動促進と養成に取り組む

２　前回協議会での御意見

・がん相談支援センターでは、一生懸命、相談支援に対応しているが人材不足
・体験者に話を聞きたい人は一定数いるが、ピアサポーターの養成研修を受けた人で、実際にがんサロンの運営を手伝ってくれる人が少ない

３　現状と課題

・コロナ禍を経て、がん診療拠点病院等におけるがんサロン活動が徐々に再開
・一方で、患者団体の活動は縮小傾向であり、行政として継続的な状況把握も困難

↓

ピアサポーターの活動（活用）促進するためには、継続的に活動できる拠点が必要
また、活動拠点（院内がんサロン）と連携した人材確保が重要

４　対応の方向性

・持続・自律の観点から、ピアサポーターの活動拠点は、がん診療拠点病院等におけるがんサロンを想定
・県は、その活動拠点における実働人材の養成と、ネットワーク形成支援等のフォローアップを中心に行う

↓

養成・スキルアップ研修は、実際に活動見込み（又は実績）のある方に対象を絞り、年1回程度、継続的に実施（受講対象者は、各がんサロンの推薦を受けたピアサポーターとして活動を希望する者や、活動実績のある者とする想定）

5　今後のスケジュール想定

10月頃　アンケート調査実施（対象：がん診療連携協議会相談支援部会参加病院）
11月頃　アンケート結果取りまとめ
２月頃　相談支援部会において取りまとめ結果共有、次年度における研修実施要領等について相談

6　参考

＜アンケート項目案＞
・がんサロンの開催状況
・運営スタッフとしてのピアサポーターの参画状況（ピアサポーター以外の参画状況）
・ピアサポーターの任用手続き、報酬・費用弁償の状況
・がんサロンを継続的に運営するために必要なピアサポーターの数
・ピアサポーターの充足状況
・ピアサポーター養成研修に必要なプログラム
・ピアサポータースキルアップ研修に必要なプログラム
・受講者推薦の可否
・研修実施（企画・運営）への協力の可否　など